



南太秦だより

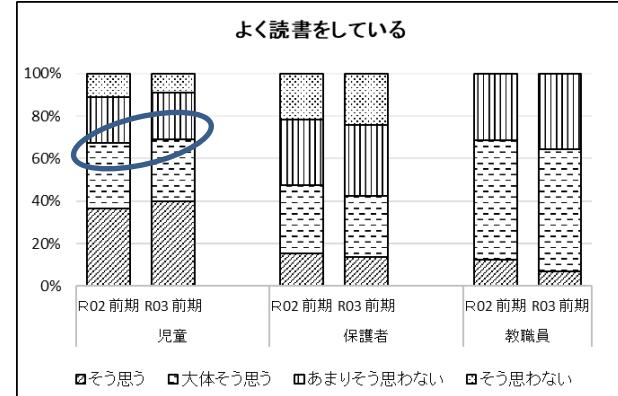
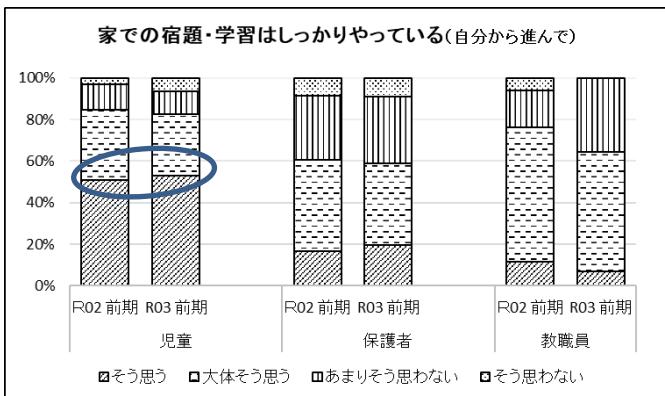
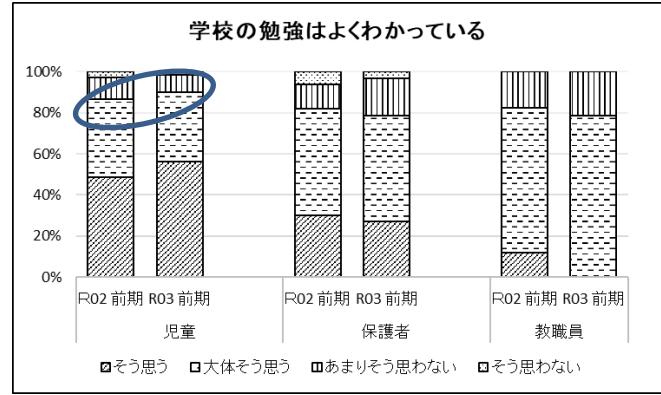
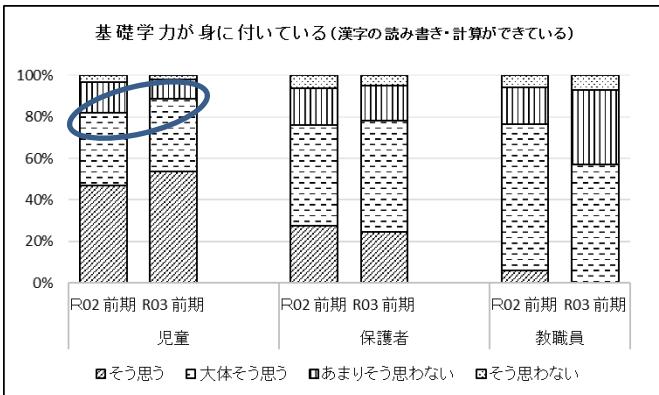
令和3年度前期学校評価結果

令和3年度前期学校評価結果 臨時号
京都市立南太秦小学校
校長 上田 清乃

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つにまとめ、それぞれについて前年度の前期の結果との比較を行い、1年間の変化や課題などをまとめています。

確かな学力

学ぶ意欲をもち、進んで表現する子



学習に関する4項目全てで、児童自身の評価が上昇しています。全体的には大きな変化はないものの、保護者や教職員では評価の下がっているところが見られます。

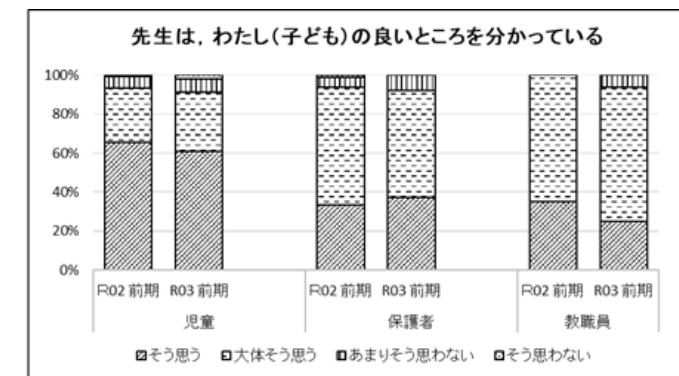
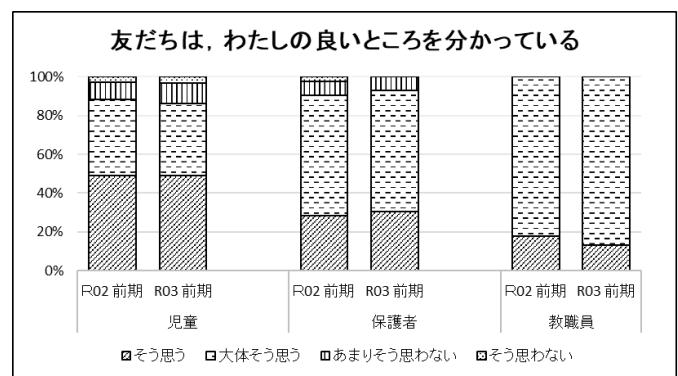
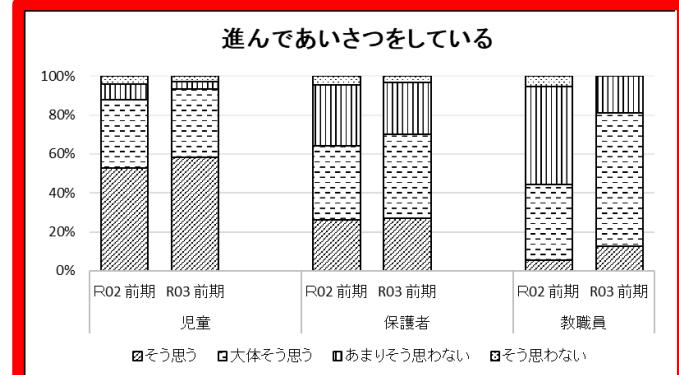
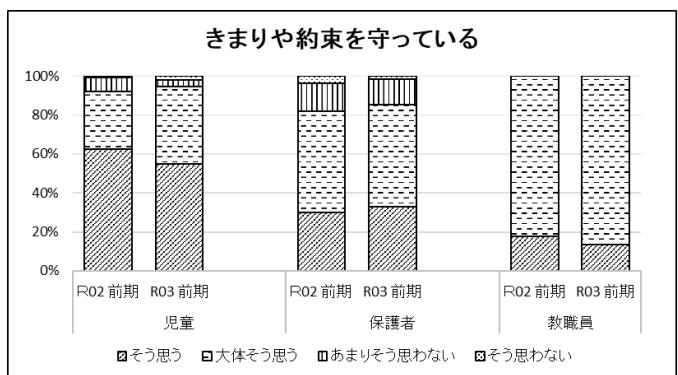
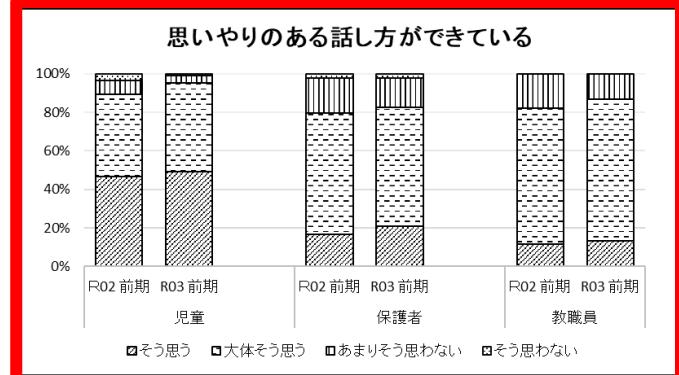
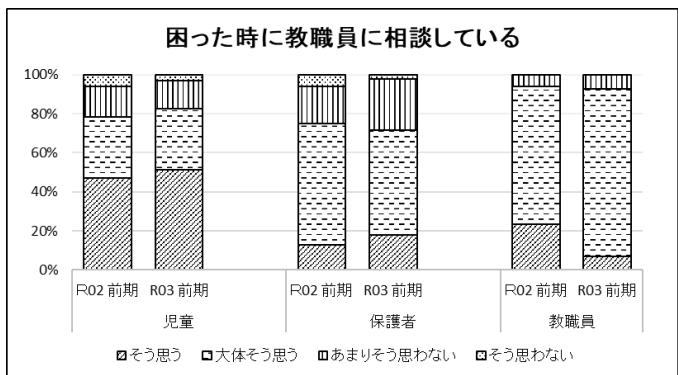
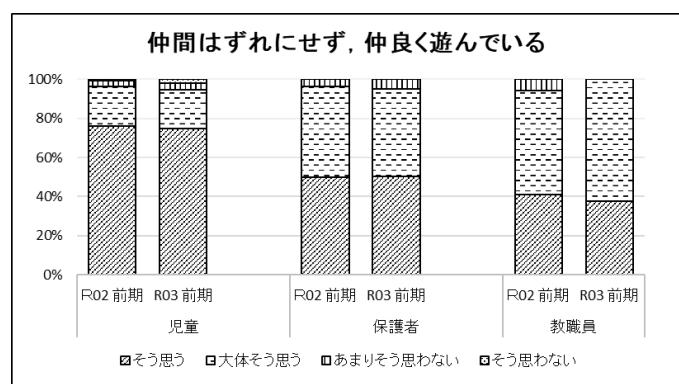
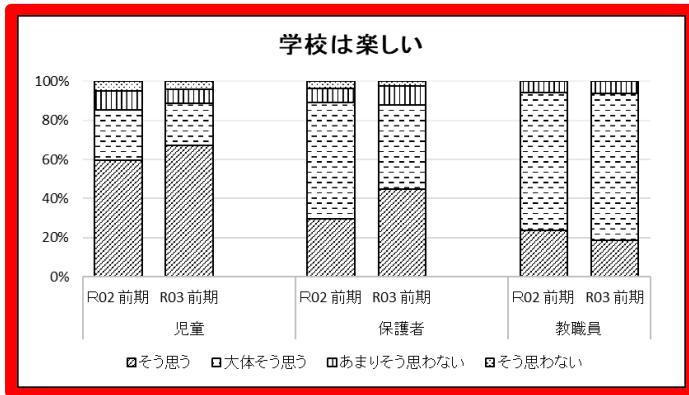
【考察】「学ぶ意欲」から「確かな学力」に

それぞれの項目について児童自身の評価の上昇が見られたことは、喜ばしいことです。児童自身が「できる、頑張っている」と感じることは、自己肯定感の高まりを表し、学ぶ意欲へつながると考えられます。その一方で、保護者や教職員との若干の意識の違いも見受けられます。

それぞれ評価をつけている理由を記述していないため明確ではないのですが、教職員としてはより高い力を求め、いわゆる“伸びしろ”を見ていると考えられます。児童の頑張りを認めつつ、頑張っているからこそさらに高いレベルを意識するのかもしれません。

「基礎学力が身についている」という評価項目は、教職員にとっては「基礎学力が身につくように指導しているか」という観点になります。コロナ禍の状況下で、放課後補充学習が行えない等、密をさけるため教育活動に制限がかかった影響もあるように思います。一人一人の学習を見取り、個々が確かに力を伸ばしていくように、今後も引き続き日々の学習指導を見直していきたいと考えています。

はじめにも述べましたように、児童の自己評価の高まりは学習意欲の向上につながります。また、「頑張っている」という努力の実感は、学習の確かな手ごたえとなり、生きる上でも大切な価値観となるはずです。



「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせてみると、上昇している項目が多くなっています。特に課題となっていた「思いやりのある話し方ができる」「進んであいさつをしている」では、確かな改善が見られ、「学校が楽しい」についても、「そう思う」が増えています。



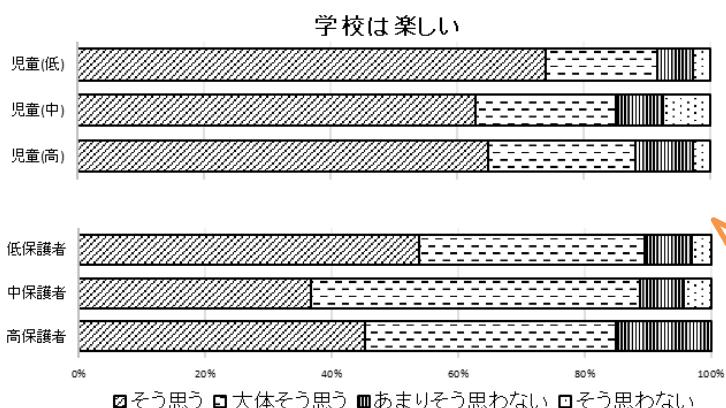
【考察】「楽しい学校」=自己実現の場

全体的に子ども達の学校生活が昨年度よりも充実したものに近づいていることが感じられます。特に「進んであいさつをしている」の項目では「そう思う」の割合が児童・保護者・教職員とも上昇し、あいさつができてきたという確かな実感があると考えられます。

学校では、児童会を中心に毎朝のあいさつ運動に取り組んでいました。正門に立ってあいさつするだけでなく、子ども達が活動をふり返り、校内の各場所に立ったり、あいさつをしながら歩いて回ったりと、自分たちで活動を工夫する姿も見られたことはうれしいことです。児童会では、あいさつ運動の改善点を話し合い、みなうずタイムで呼びかけるなど、さらに気持ちの良いあいさつを目指しています。学校の取組だけでここまで改善はできません。やはり、各ご家庭でのお声かけや地域の方の見守りが子ども達の成長や変容に大きく関わってくるのだと思います。今後も、学校と家庭、地域と思いを共有しながら進めていけたらと思いますので、ご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

「学校は楽しい」の項目についても、児童や保護者の「そう思う」の割合が上昇しました。昨年度の臨時休業があった学校生活と比較して、毎日、学校生活が送れており、学習や遊びで友達と共に過ごせる時間が増えたことが要因かと思います。一方で、「あまりそう思わない」や「そう思わない」の数値についても、割合が少ないとはいえ見過ごしてはいけないことがあります。制限のある生活の中でストレスや不安を感じることも多いかと思います。会話や交流など、友達とのコミュニケーションも取りづらい現状もあります。新しい生活様式によって、学校教育も「GIGAスクール構想」という新たな段階に進みました。これまで大切にしてきた“つながり”を大切にしつつ、その“つながり”を深めていけるように学校教育を見つめ直し、改良・工夫していくたいと思います。

学校は子ども達にとって「自己実現の場」でもあります。「勉強ができるようになりたい」「低学年の見本になりたい」「友達と仲良くしたい」など、子ども達は様々な願い(目標)をもって学校にやってきます。あいさつ運動のように、子ども達自らが「こうしたい」と主体的に活動していく経験は、子ども達の自己有用感を高め、自己実現の一歩になると考えます。そういう子ども達の主体性を促し、活躍やつながりの場を保障していくことが学校教育の大切な役割でもあると考えます。家庭や地域と連携しながら、一人一人がそれぞれの良さを発揮し、つながり合う「楽しい学校づくり」を目指したいと思います。



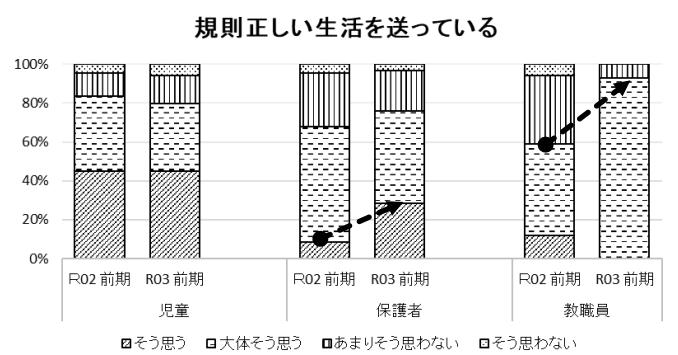
「そう思う」「大体そう思う」を合わせた割合が、低学年で92%、中学年で86%、高学年で88%でした。保護者アンケートでも同様に9割近くの方が「楽しい学校」を感じられているようです。

健やかな体

自分の体を大切にする子



児童の大きな変化はありませんが、保護者の「そう思う」教職員の「そう思う」「大体そう思う」の総計が大きく上がっています。



【考察】長い休みこそ規則正しい生活を

昨年度との比較で、保護者と教職員の「そう思う」あるいは「大体そう思う」の比率がはっきりと上昇しました。今年度ここまで学校生活を休業することなく送ることができており、改めてコロナ禍での臨時休業が及ぼす影響力の大きさを感じました。

ただ、児童のグラフを見ると、若干「大体そう思う」が減っており、懸念するところもあります。GW、夏休み、冬休みと年3回お休み明けに生活リズム調べを行っていますが、やはり休み明けは生活習慣が戻らず、だらけてしまいがちです。そのまま引きずってしまい、学校生活に影響を及ぼすこともあります。ゆっくりと心と体を休めてもらうことは大事ですが、寝る時間や起きる時間など、休み中も生活リズムを崩さないことを大切にしてほしいと思います。

自由記述（一部抜粋）

- 新型コロナの影響下、大変な状況でも子どもが楽しく学校に通えることができ、感謝しております。
- 昨年来のコロナ禍によって学校生活にある制限が少し残念に感じているように思います。比較的規模の小さい学校ならではの良さはあると思っています。
- 学年、性別関係なく楽しんで遊んでいる姿を見ると嬉しい。安心する。
- 人に言っても良い言葉の区別があまりできていない子が多い印象です。根の部分で悪いわけではなく、皆とても良い子なのでやはり「区別がついていないのでは？」と思います。この時期に限られた中で学習や子や親との関わりなど色々考えて下さってありがとうございます。

学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

- 「よく読書をしている」の問いかけに、児童の思いと保護者・教職員の観察に少し違いがあり、保護者の児童に対する見る目が違うようです。家庭における読書は、親がどの程度読書しているか、児童が常日頃から読書に対して勤しむ心を身につけるかにあると思います。児童に文字や文章に興味を持つやる気を植えつける事が肝心だと思います。
- 家庭学習・学校での勉強・読書など「確かな学力」において、子ども達自身が高い評価をつけていることから、とても頑張っている様子がうかがえます。その成果を発揮できる場面が授業中に多く見られるといいですね。
- 児童と教職員の認識のズレを埋められるようになればもっと実力がつくのだろうと思います。ただ、児童が自信を持つことは、とてもいい事だと思います。
- 17時をまわっても公園や病院の芝生で遊んでいる子どもが多いです。冬場は特に暗くなるのも早いので、時間を守って遊べるように家庭でもしっかり指導してほしい。友達を思いやる気持ちを大切にして、心も身体も成長していくってほしい。
- 行事が少なく、子ども達とふれ合う機会や話す機会がないのは残念。
- 子どもと教職員の評価の違いがあるが、子どもは自身の個人評価であり、教職員はクラス全体の評価であるので、違いが出るのは当然だと思う。ただ「きまりや約束を守っている」などの評価の違いについては、気をつけて見ていく必要がある。
- コロナ禍で大変な時期があり、アンケートを見ると7~8割のところまで、授業・気持ち・体力が追いついてきたのかなという感想です。気になるのは、新型コロナウイルスにより、よく「学力差が広がった」「不登校になった」という報道がなされている中、このような問題は、南太秦ではなかったのかなと思いました。また、子どもの体力低下をあげる取組、子どものストレス等に対する心のケアが必要かなと思いました。

多数のご意見、ありがとうございました。あらためて子ども達の毎日の学校生活が貴重なものであることを感じました。日々の子ども達の生き生きとした姿こそが、学校教育の目指すところであり、大切にしたいことでもあります。コロナ禍による制限がある中でも、子ども達の学校生活がより充実したものになるよう取り組んでいきたいと思います。

この学校評価は学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり、教育活動の質的向上等を目的に、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都市方式」で実施しています。保護者の皆様、学校運営協議会の皆様からいただいたご意見を校内でも共有し、引き続き改善を進めていきたいと思います。

今後も、より一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします